

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践 紹介

「書ける力」が「読める力」を育てる(2)

—日記Writingで接続詞使用力を育てる—

富士高等学校附属中
紺野 正典

前回の1年に続き、Writing力、ひいてはReading力を伸ばす2年生の実践をご紹介します。

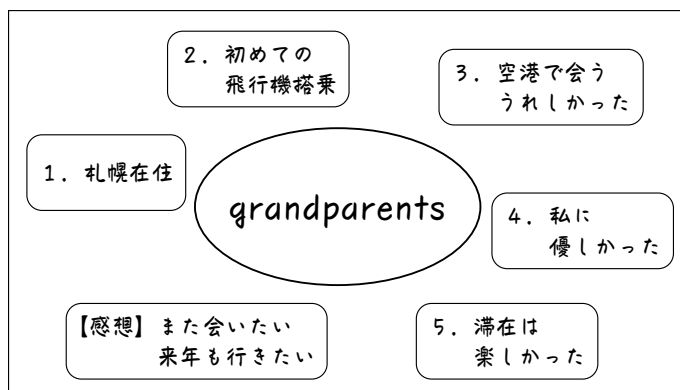


接続詞を使って日記を書くことで自己表現活動を行います。

●1 書くことのハードルを下げる

1年生で一般動詞の「過去形」を学んだ後は、「日記」を書くようにしています。ですが、生徒に書かせてみると、なかなか書けない現状を目の当たりにすることがないでしょうか。その現状を打破し、生徒が長く書けるようになるように、mappingを使って、「言えることを足していく」感覚を伝えるようにしています。

1学期はあらかじめ準備したmapping(例:右図)をもとにした英作に取り組ませます。授業では、生徒に躓きそうなところを尋ね、質問がなくなったら生徒同士で英文を言わせて、残りは宿題。次の時間に答え合わせをします。答え合わせの際、生徒が書いた英文をよりよくする方法を生徒と一緒に考えるようにしています。特に、接続詞(and / but / so / because / when / ifなど)の使い方を意識させるようにしています。これを週に2回行います。



例〔生徒〕 They met (saw) us at the airport. I was happy.

=〔ブラッシュアップ後〕 When I met them at the airport, I was happy.

2学期には、1学期に使用したmappingの内容を日本語の文章で提示し、和文英作をします。これは1学期には単語を並べるのが精いっぱいだった生徒に、1学期と同じ内容にすることで負荷を軽減した英作文に取り組ませることで、冠詞や代名詞のミスに気付かせ、英作文の正確性を高めることを意図しています。こうした支援を通して、学習初期段階の生徒でも過去形を用いた日記活動に主体的に取り組めるようになります。

●2 英文を接続詞で拡張する感触をつかませる

「日記」は自由度が高く、負担に感じる生徒も多いので、少しずつ慣れさせていく必要があります。そこで、日記活動に入る前段階として、接続詞 and, but, so を用いて既習の単文を膨らませる練習も行いました。1年生が目的とする接続詞3つ、and but so を(なるべく)使って拡張した文を、毎回の授業で5文程度パワーポイントで提示して音読・筆写させるというものです。拡張する英文は、生徒に持たせている『英単

語99%』という単語帳の動詞の例文を主に使っています。例えば I eat breakfast at seven. という英文を、I usually eat breakfast at seven, **but I got up at 7:20 today. So I did not eat much, and I felt sad.** または I usually eat breakfast at seven, **but I got up late today. So I did not have time, and I felt hungry at school.** というように拡張します。

1文目の基準になる動詞は、その時の既習語彙の中から、日記に使いそうなものを選び、20～30個用意しています。『英単語99%』に掲載されている例文は、生徒が表現の参考にできそうなものが多いため、この活動にも役立ちます。

生徒は、モデル文を発音していると、だんだん自分のことを言いたくなってきます。このため、自分のことを書く欄を月ごとの課題プリント内に設け、良い文は次月の課題プリントの内で紹介します。この練習により、生徒は「一文を広げる感覚」をつかみ、英文を書く心理的ハードルが下がり、より多く書ける生徒が増えました。

※授業で使用する英文例と、パワーポイントのサンプルは右の二次元コードからご覧いただけます。パワーポイントは、アニメーション機能を活用し、英文を意味のまとまりごとに提示することで、生徒に無理なく繰り返し音読を促しています。



●3 1文から始める英文づくりー接続詞と“言い換え”で育てる表現力

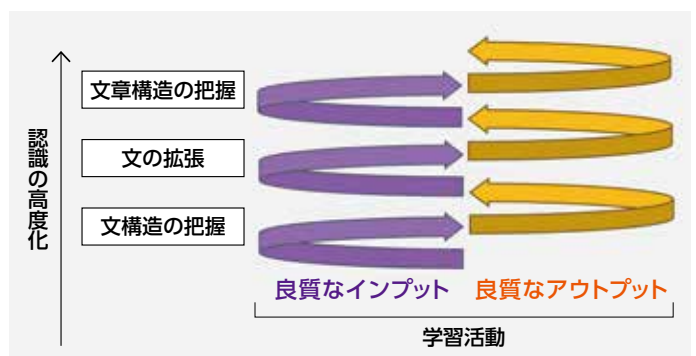
生徒が「一文を広げる感覚」をつかめてきたら、今度は、『英単語99%』から英文を用意し、And But So の後ろに来る英文を生徒に考えさせます(例: He can run fast. (p.25) 1. And … 2. But … 3. So …)。

1日1文をまずノートにディクテーションとして書かせ、『英単語99%』のどのページにあるか確認させてから、文の続きを生徒と一緒に教師主導で考えさせます。時に、生徒は「めちゃめちゃ楽しかった」「混んでました」「面倒くさいから」「なんとなく」「ダメだった」「盛り上がった」などと言ってきます。生徒が「英語にできない」と感じる場面は、語彙不足もありますが、日本語の抽象度が高すぎる場合が多いと感じます。そうした時は言い換えをする機会と捉え、「つまり何が起きたの?」と問い直し、出来事や感情を具体化させています。この過程こそが、方略的能力 (strategic competence) の育成であると感じています。そして学習者が使える語彙を増やすには、どのような条件が必要なのかを考えていくことが大事だという視点で、授業を考えています。

また3年になると、これにトピックセンテンス (話題文) を加えます。先ほど例示した and, but, so で広げた文の場合は、I had a bad morning today. なんてどうでしょうか。

I had a bad morning today. I usually eat breakfast at seven, but I got up late today. So I did not have time, and I felt hungry at school.

この話題文を日記の冒頭に持って来るレベルまで指導するのはなかなか難しいのですが、このように Writing 活動を通して、文をつなげる感覚が育ってくると、生徒は徐々に「文章の構造」を意識するようになります。図式化すると右のようになります。



今回は、Writing の経験がどのように Reading 力へとつながっていくのかについて述べたいと思います。

■秀学社は中学校の英語教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、秀学社 HP 「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。

秀学社 HP

<https://www.shugakusha.co.jp>

